

編集後記

11月号は、「道路」特集です。巻頭言は、小林潔司先生に「道路構造物のアセットマネジメント」について執筆して頂きました。編集方針を、道路の維持・修繕・補修・補強に関する取組みとし、特集報文は、舗装の非破壊構造診断、リフレッシュ工事、上面増圧工法、トンネル坑口部の補強等について紹介させて頂きました。

今、道路に求められるものは、何でしょうか。

道路は、人々の生活に密着し、経済の発展に寄与する重要な社会基盤であり、救急医療支援・災害時の輸送路として活躍します。この重要な役割を確実に果たす為には、日々の点検管理、維持、修繕、補修、補強が必要となります。

高速道路に特化した話をします。

私が、高速道路管理を行っていた時のことですが、豪雨による土砂災害で、完成4車線道路の内、2車線が崩落したことがありました。その日は、終戦記念日の8月15日。帰省に伴う交通集中渋滞がピークとなっていました。想像し易いことでしょう。一般道は、完全に交通麻痺状態となりました。2万m³が崩れ、仮復旧に4日かかったと記憶しています。当時現場に派遣された私は、光ケーブルの復旧を行い、その後、押え盛土を行う現場監督を昼夜連続で行いました。復旧に向け必死でし

た。皆がそれぞれの役割に必死で対応しました。応急復旧計画、本復旧計画、地元対応、マスコミ対応、警察協議。

今では、笑い話ですが、一般道が交通麻痺状態であった為、事務所から配給される食事は、一日一食でした。それも朝届くか、昼届くか、それとも夜届くかわからず、気が利いているのか、利いていないかわかりませんが、現地へ届く飲み物は、栄養ドリンクだけで、真夏の暑さの中、水分を補給しない訳にもいかず、リポビタンDを一日10本も飲んでしまいました。栄養は摂れたのでしょうか、元気になったのか、興奮状態になっていたのかは定かではありません(笑い)。

これは、一例に過ぎませんが、道路が利用できないことがこれ程、大きな影響があるのかと思知らされた瞬間でもありました。

無くなって初めてわかる大切さ。皆さんも経験があるのではないのでしょうか。

病気になってわかる、健康のありがたさ…。

道路も同じではないでしょうか。

11月号は、道路がこの重要な役割を果たす為に必要な技術を紹介できるような報文を募ってまいりました。最後になりますが、ご多忙中にもかかわらず、報文の執筆にご協力頂きました。著者各位に心より感謝申し上げます。

(齊藤・圓尾)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	今岡 亮司
上東 公民	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
佐野 正道	新開 節治
関 克己	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
橋元 和男	本田 宜史
渡邊 和夫	

編集委員長

岡崎 治義 (社)日本建設機械化協会

編集委員

森川 博邦	国土交通省
山田 淳	農林水産省
松岡 賢作	(独)鉄道・運輸機構
圓尾 篤広	(株)高速道路総合技術研究所
石戸谷 淳	首都高速道路(株)
高津 知司	本州四国連絡高速道路(株)
平子 啓二	(独)水資源機構
松本 敏雄	鹿島建設(株)
和田 一知	(株)KCM
安川 良博	(株)熊谷組
渥美 豊	コベルコ建機(株)
富樫 良一	コマツ
藤永友三郎	清水建設(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
山本 茂太	キャタピラージャパン(株)
星野 春夫	(株)竹中工務店
泉 信也	東亜建設工業(株)
齊藤 徹	(株)NIPPO
高木 幸雄	日本道路(株)
堀田 正典	日立建機(株)
岡本 直樹	山崎建設(株)
中村 優一	(株)奥村組
石倉 武久	住友建機(株)
京免 継彦	佐藤工業(株)
久留島匡繕	五洋建設(株)
藤島 崇	施工技術総合研究所

12月号「長寿命化・維持管理・リニューアル」予告

- ・下水道長寿命化支援制度の概要とストックマネジメントの推進
- ・日本下水道事業団におけるアセットマネジメントに関する取り組み
- ・FMC (Full Maintenance Contract) における稼働率維持とコンポーネント寿命の延命
- ・鉄道軌道のメンテナンス
- ・劣化PC管の調査・診断手法
- ・コンクリート表層部の健全性診断
- ・三井倶楽部の改修
- ・東京駅丸の内駅舎の保存・復元
- ・名古屋港棧橋の急速施工拡張工事

No.717「建設の施工企画」 2009年11月号

[定価] 1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成21年11月20日印刷

平成21年11月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖 三

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支	〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8	電話 (011) 231-4428
東北支	〒980-0802 仙台市青葉区二日町16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1	電話 (025) 280-0128
中部支	〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支	〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4	電話 (06) 6941-8845
中国支	〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22	電話 (082) 221-6841
四国支	〒760-0066 高松市福岡町3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-8-26	電話 (092) 436-3322